土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　砂防工事全体計画書作成業務

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　砂防　構造物基礎

ボーリング名	Bor No.1-西ノ谷川支川-補助基準点3	調査位置	広島県安芸郡海田町	北緯	34° 21′ 05.5665″
発注機関	広島県西部建設事務所	調査期間	令和2年 8月26日～ 令和2年 8月28日	東経	132° 33′ 37.4876″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 211.30m	角度	180° 上 90 下 0° 0°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西
総削孔長	9.00m	地盤勾配	0° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦D0 / エンジン：ヤンマーNS100 / ポンプ：東邦BC-3C

標尺（m）	標高（m）	深度（m）	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日
	210.70	0.60		粘土質砂		暗褐			耕土状 細～中砂の砂を主体とする	
1	209.90	1.40		砂		淡褐	rd4		中～粗砂の砂を主体とする 径1cm以下の礫を少量混入する	
2 3	207.40	3.90		玉石・礫混じり砂		赤褐	rd3		L=10～35cmの玉石及び転石が混在する 径3～7cmの礫を20～40%混入する 玉石、礫間は中～粗砂の砂を主体とする粘土混じり砂である 部分的に玉石が連続的に混在する 標準貫入試験結果は玉石に当たり、いづれの深度もN=50回を測定した	8/28 3.83
4 5	205.70	5.60		礫混じり砂		暗褐灰	rd3		中～粗砂の砂を主体とする 径3cm以下の礫を20～30%混入する 粗砂状の小礫を多く混入する 細粒土分を10～20%含有する	
6	205.20	6.10		砂		淡灰褐			強風化した花崗岩状を呈する 採取試料は指圧で土砂～細礫状となる	
	204.80	6.50		花崗岩		暗灰白			CM級岩盤、L=12cm以下の短柱状～柱状コアで採取する	
7 8	202.30	9.00		花崗岩		灰白			CH級岩盤 L=20～30cmの柱状コアで採取する コア肌は比較的になめらかである 亀裂面は若干、淡茶灰色に変色する 亀裂間は部分的に礫状となる	
9 10 11 12 13 14										

標準貫入試験

深度―N値図（0 10 20 30 40 50 60）

N値	深度（m）	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
50以上	1.15	14	25	11	50	250	
	1.40			50	250		
50以上	2.35	9	21	20	50	270	
	2.62			70	270		
50以上	3.15	10	40		50	160	
	3.31		60		160		
17	4.15	5	6	6	17		
	4.45				300		
25	5.15	6	9	10	25		
	5.45				300		
50以上	6.10	50			50	20	
	6.12	20			20		

試料採取 深度（m）	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
2.35	1-1	⊖	含水量 粒度	8/26
2.62				8/27
				8/28